

Title	Tableau conomique ( 経済表 ) の解説 ( 上 )
Sub Title	
Author	三邊, 金蔵
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1918
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.12, No.10 (1918. 10) ,p.1452(124)- 1462(134)
JaLC DOI	10.14991/001.19181001-0124
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19181001-0124">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19181001-0124</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## Tableau Economique(經濟表)の解説 (上)

## 三 邊 金 藏

## 一

重農學派の學說を知らんと欲する者は、早晚必ず Quesnay の說に溯らざるを得ず。而してケネーの說に溯る者は、又必ず彼の經濟表に詣らざるを得ず。然るに彼の經濟表は、彼が是に附せる説明(Explication du Tableau Economique)を以てするも、必ずしも解し易からずして、此點より甚しく彼の說の研究者に困難を感せしむるものあるは、Mirabeau の如き重農學派の逸才を以てして、猶ほ且つ始めは之を解し難しとなし、終にケネーをして特に彼の爲めに其説明を再びせる私信を草せしめたる這般の事實に徴して、略ぼ之を察し得可きなり。然れば彼の經濟表に、更に詳細なる説明を附し、是を解し易からしめんとするは、決して屋上更らに屋を架す

るの徒事ならずして、却つて一個有用の業たるを失はずと稱し得可きものなりとす。而して是れ纏て世に其人在るを見る所以なるが、吾人の卑見に依れば、此際二三の圖表を添加して、ケネー自身の説明をより、具體的ならしむるの途に出づるときは、一層有効に同じ目的を達し得可しと信ず。乃ち以下、彼自身の説明を經とし、二三先輩の説明を緯とし、更らに之を點綴するに私解を以てしながら、此私案を用ゐて表中の難點とせらる彼の *Notes* を説明し、斯くて吾人よりも後れて經濟表を讀まむとする人々の爲めに試みに其道を直くせむと欲す。

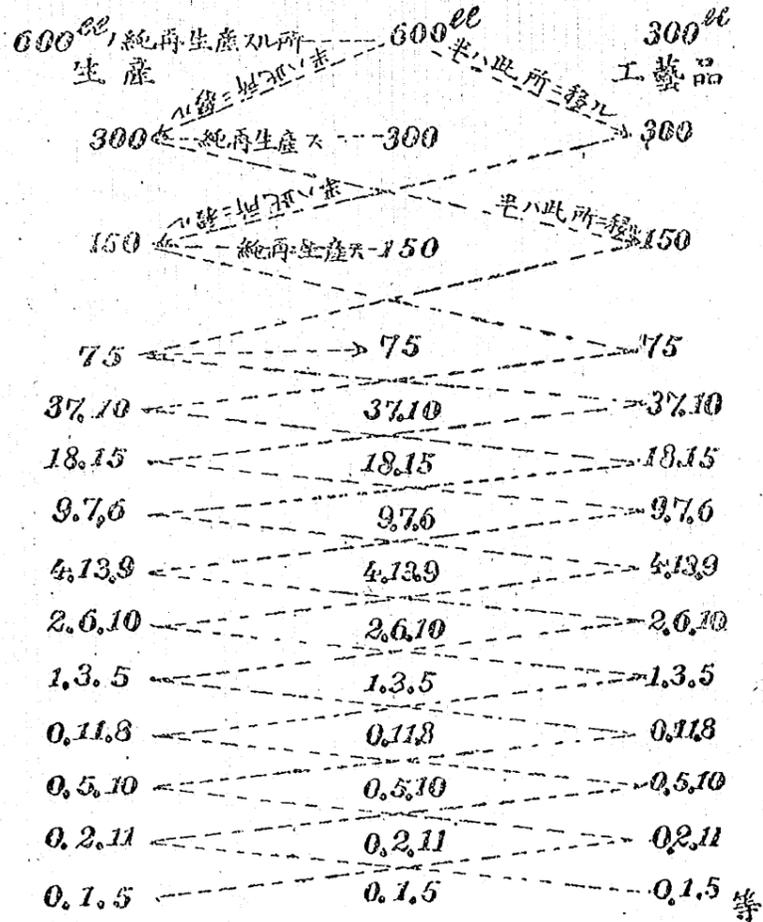
## 二

初めに先づ經濟表其物を譯出して讀者の便を圖らむならば、其は次の如くなりとす。

經濟表

研究項目(1)費用ノ三種類(2)其泉源(3)其元資(4)其分配(5)其效果(6)其再生産(7)其相互間ノ關係(8)其人口トノ關係(9)農業トノ關係(10)工業トノ關係(11)商業トノ關係(12)國富トノ關係

生産的費用 農業其他ニ關スル 年々ノ元資 所得600ヲ生産ス ル爲メ600ヲ要ス	所得的費用 租税納入後生産不生 産兩階級ニ分タル 所得 年々	不生的費用 工業其他ニ關スル 年々ノ元資 不生産階級ノ勞 作ノ爲メ所要
--	--	---



再生産總額……600 ヲ得ル(所得)ノ外ニ年々ノ費用600 ヲ得ル及土地ノ補償スル労働者ノ原始的元資ノ利子300 ヲ得ル。故ニ再生産ハ1500 ヲ得ル。内ニ計算ノ基礎タル所得600 ヲ得ル(租税ヲ除キテ)ト其年々ノ再生産ニ必要ナル元資トヲ含ム……次頁ノ説明參照

却說此表の冒頭に掲げたる研究項目十二ヶ條は、ケネーが「經濟表の説明」中に於て自ら論究せんとする主題を摘記したるものにして、經濟表の説明を精細に檢覈するときは其總てが極めて簡單ながら一つも漏れなく説かれあるを見ると、然かも其を此處に説かんは、吾人當面の企圖にあらざるが故に、此は時々之に言及するを以て足れりとして、今は唯彼の *Nizaga* に就き豫め其目的とする所を語らんと欲す。

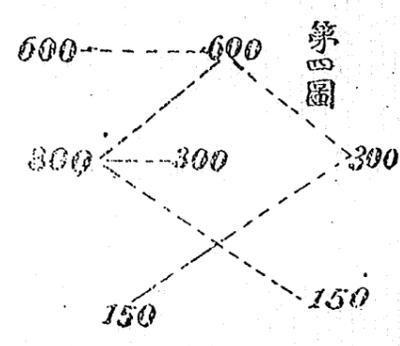
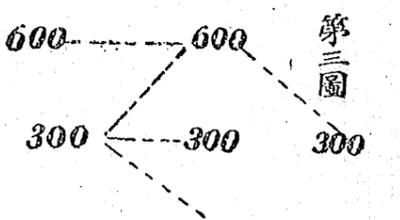
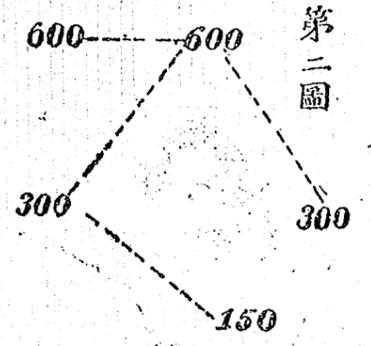
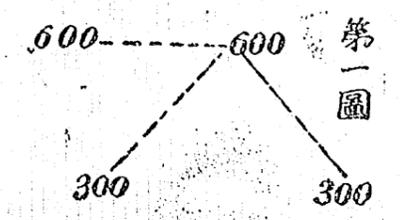
然り然らば *Nizaga* の目的は果して那邊に存在するや。元來ケネーの主張せんとする所は、純國民所得唯一の收納者たる君主、土地所有者、僧侶等の如き資産階級(註)及び此階級に農産物又は衣服、家具、什器等の如き工藝品を供給するに代えて派的に其分配を受くる生産階級及不生産階級の各が、其所得の大半を農産物の購入に投ずるか又は工業品等の購入に投ずるかに因りて一國の富と人口とは或は増加し或は減少す可しといふに在りて、而して此經濟表は其主張の前提若くは基礎として、先づ是等階級の謂はゞ代表的一員が右兩支出の孰れにも偏せずして均等に之を費したりとせば、其は果して如何なる結果を生む可きやを表示せんとす

るものたるなり。先きに掲げたる彼の研究項目に關聯せしめて、之を再言すれば其第四第五第六第七の四項に關する研究を不偏中庸の場合に就て試みたる其成果の表示にして、總ては之より推して研究項目の第十二を論せんとするものなりと謂ふを得可し

(註) ケネーが斯く思考したるものなるは其 Questions intéressantes sur la population, L'agriculture et le Commerce 中の人口に關する第八問より之を推察するを得可し。猶ほ Canano; Theories of Production and Distribution 二二三頁を參照せよ。

三

遮莫今圖表に歸りて其 *rigzas* を説明せんならば、生産階級の一員が或年の初に於て前年度の其元資六百リールを用ゐて再生産したる純再生産六百リールを地主階級の一員に其所得として納付したりとし、而して後者が是れを、初めに述べたる彼の假定に従ひ、一半は麪包、肉、野菜等の如き農産物の購入に、他の一半は衣服家具、什器等の如き工業品の購入に費したりとせんか、彼の所謂六百リールは二分せられて、三百リールは左方なる生産階級の一員に、他の三百リールは右方なる不生産階級の一員に歸屬すべし。(左記第一圖參照)。



次に斯く兩分せられて左方生産階級の掌裡に歸せる三百リールは、再び前の假定に従ひ其受領者に依り一半は自家の消費する農産物を同じ生産階級の他の一員より購入するが爲めに費され、他の一半は不生産階級より衣服、什器、農具等を購入するが爲めに費さるゝを以て、此三百リール中の百五十リールは再び移つて右方なる不生産階級の一員に歸するを見る可し。(同じ生産階級の他の一員に歸屬したる他の一半、百五十リールに就ては、經濟表中に何等の表示なきが故に、其結末に就て思ひ煩ふ者或は之れある可しと雖、ケネーの此處になせるが如く

注目の焦點を生産階級の彼の代表的一員の上に定むる場合に於ては、此は暫く之を措くを以て却つて可なりとす可し。因つて此點に於ける圖解は自ら第二圖の如くなる可し。

然れども生産階級に歸屬せる此三百リールに就ては、右の費途の外、猶ほ記せざる可からざる重要な事實あり。其は即ち生産階級の彼の代表的一員が其受領せる此三百リールを斯く費すに因りて、再び十割の純所得を生み(註)是を地主階級に送ることにして、此事實も亦た表中に示されざる可からざるを以て、圖表は三變して自ら第三圖の如く成る可し。

(註) ケネーは、穀物の自由貿易に依り穀價恰好に支持せらるゝ、其一方に於て農民の負擔軽減せらるゝときは、當時の英國農業に其實例を見るが如く、斯る多大の純所得を生み得可しとなす者にして、彼が自由貿易論を唱へ、租税は純所得にのみ之を課す可しと主張するも亦た實に是が爲めなりとす。

然り、然らば、先きに兩分せられて右方生産階級に歸屬せる他の三百リールは、果して如何なる作用をなすや。此場合に於ても初めに設けたる假定に基き、之を受領せる生産階級の一員は、其一半を割きて生産階級の一員より或は食料品

及加工原料品の爲めに、或は外國貿易の爲めに、其生産物を購入し、残りの一半を以て、同じ生産階級の他の者より、自己の資本の維持及び代置に必要な勞務、工作品等を購入するが故に、此三百リールの一半たる百五十リールは左方に運ばれて生産階級の掌裡に歸着す可し(同じ生産階級の他の一員に渡されたる他の百五十リールに就ては、生産階級相互間に起れる同様の場合に就て述べたると同じ注意を乞はんと欲す)。従つて吾人の圖表は茲に四度變化して第四圖の如く成るを見る。而して此場合に於ては純所得の發生は之を見ることがなきを以て(是れ不生産階級の稱ある所以なり)此時點に於ける圖表の變化は即ち右を以て足れりとす。

## 四

却說以上述ぶる所に依りて、吾人は六百リールの所得が如何なる理由に依りて左右に均分せらるゝや、及び此左右均分の成果たる各の三百リールが又如何なる理由に依りて再び左右に均分せられ、且つ如何なる作用をなすやを明にし、斯くて「經濟表」中に盛られたる彼の zigzag の起頭的一段が何事を意味するやを説き

たり。然れば同じ説明法を反覆し、同様の言辭を重ねつゝ、zigzagの線上を辿りて、二段より三段に及び、三段より四段に降り、行き行きして終に其最後の點にまで至らんか吾人の zigzag 追跡は完全に終了す可くして、吾人の作れる圖表は懸てケネー自身の其と異れるところなきに至るや必せりと雖、然かも與へられたる圖表を理解せんが爲めには、斯る煩勞を敢てするの必要全く在ることなきを以て、其は總て之を省略に附し、一氣に全道程を馳せ下りて直ちに表の最下終點に至る可し。而して然るときは、吾人は先づケネーが中央縦列の數字を加算して其總和(六百)を示し居るを見る次第なるが、彼は是に由りて抑も何を語らんと欲するや、 $(1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{4} + \frac{1}{8} + \frac{1}{16} + \dots + \frac{1}{64} + \dots)$ なるが故に  $500 + 150 + 75 + \dots + 0.15$  が正確に 600とならざるは勿論なれども、ケネーの目的は毫厘の差までも争はんとするに在らざるを以て、數理上の此事實はケネーの論旨を損ふに足らずと謂ひ得可し。

今此總和六百をとりて同じ縦列の最頂上の數字と比較するとき、兩者互に相一致するを見る可し。而して此結果は、資産階級の者が初め其所得の費途を此處に假定せるが如く配分し、而して是より派生的に其分配を受くる生産、不生産、兩階級の者が又同様に之を費すより來るものにして、同じ配分の持續せらるゝ限りは、其數字の異り、人の異なるに關せず、常に同様の結果を見る可し。故に總じて之を言へば、資産階級及是より其分配を受くる生産、不生産、兩階級の者が、何れも其所得の一半を生産階級に、他の一半を不生産階級に歸するが如く配分するとき、純所得 (product net) は永久同一に持續せらるゝと稱するを得可し。而して是れ實にケネーの此表に依つて語らんとせる所にして、此を解すれば、彼が此に基きて、各階級の費すところが、生産階級の爲めに偏するや、不生産階級の爲めに偏するや、に因りて一國の繁榮と衰亡とを容易に判ずるを得可しとなし、其論證を此表に關聯せしめて、例へば前者に偏すること、先きの場合よりも六分の一ならば中央縦列の總和は七百となり、後者に偏すること、同じ割合ならば其總和は五百となると説ける、其計算も亦た容易に之を知るを得可し、蓋し此場合に於ては經濟表の數字は左の如き變化を見るに至ればなり。

(む望を記附御旨る依に告廣誌雜會學田三は節の文法御へ主告廣)

# 傷 害 保 險 兼 營

普 通 傷 害 保 險

● 海陸旅行傷害保險  
● 地陸上旅行傷害保險

料率低廉 契約簡便 切符販賣

東京市日本橋區本草屋町五番地(三井銀行横)



## 共 同 火 災 保 險 株 式 會 社

營業種類 火災保險、海上保險、運輸保險、傷害保險

營業部 東京、大阪、京都橫濱名古屋神戸、仙臺福岡、金澤、京城  
支店所在

左及中	右
350.	250
175.	125
87.10	62.10
43.15	31.5
21.17.6	15.12.6
10.18.9	7.16.3
5.9.4	3.18.1
2.14.8	1.19.0
1.7.4	0.19.6
0.13.7	0.9.9
0.6.10	0.4.11
0.3.5	0.2.5
0.1.8	0.1.2
700.	500.

第十二卷 (一四六三) 論 說 Tableau Economique(經濟表)の解説

第十號 一三四